神呪のネクタール
しんじゅ
2
原作
吉野弘幸
漫画
佐藤健悦
Champion RED Comics
RED

Champion RED Comics
RED
神呪のネクタール
しんじゅ
原作 吉野弘幸
漫画 佐藤健悦
2

ダトラ
スリーア
ダーラ共和国
勢力範囲
カーセル
旧アダール
侯国
アルビオン王国
勢力範囲
ガランドア
ジンガ

前巻までのあらすじ

異世界に召喚された“稀人（マレビト）”、カイ・ワタリ。記憶を失った彼は、亡国アダール侯国の姫、サクラと出会う。サクラは、乳房に神秘の力を宿す“神妃（アンブロシア）”で、その力“呪乳（ネクタール）”を口にすることによって、カイは無敵の戦士に変身する。

己の甘さ故に、サクラを守っていた義兄・グレイを死なせてしまい、サクラをさらわれたカイは、仮面をつけてグレイを名乗り、軍を率いて強大なダーラ共和国に戦いを挑んでゆく…！

登場人物

カイ・ワタリ
異世界に召喚された"稀人"。"呪乳"の力を得て無敵の戦士に変身する。
グレイの遺志を継ぎ、サクラを守ろうと決意する。

サクラ・シャクンティーラ・アドニエラ
ダーラ共和国に滅ぼされたアダール侯国の姫。乳房に神秘の力を宿す
"神妃"。その力のため、ダーラ共和国に追われる身となる。

グレイ・エンフィールド
レムリアンカンパニーの軍人、少佐。サクラの姉の婚約者。
暗殺者からサクラを守って一命を落とす。

リギア・クラッツ
レムリアンカンパニーの軍人、少尉。
突然現れたグレイ(カイ)を怪しみながらもその指揮下に入るが…!?

目次 CONTENTS

初出／チャンピオンRED 2017年5月号～8月号

あぁ……

まだワタクシの為に
〝神妃〟（アンブロシア）の力を使うことを
ご承諾いただけないの
ですか？

サクラ・
シャクンティーラ・
アドニエラ姫

カイさん
あなたも
巻き込んで
しまって
ごめんなさい

無事
どこか遠くに
逃れて
くれていると
いいのだけど
……

グレイ・エンフィールド
少佐……？
本当に…？

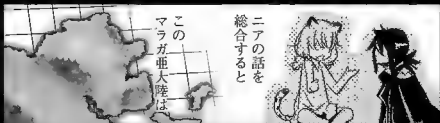
サクラさんを助けるために――

――ってことはここは〝マラガ亜大陸〟でいいんだね？

そ
で
あたしたちが
いるのが
この端っこ
あたりの
スリーアって港街
サクラさんの国
――アダールは？
このへん
たしか
で――
今 このマラガでは
アルビオンとダーラが
植民地を
ひろげよーとして
戦ってんのさ

その争いの中で
ダーラ共和国の
軍隊が
アルビオン王国と
関係の深い
アダール侯国を
襲ったってわけか…
ねぇ ニア
レムリアン
カンパニーって
いうのは——
アルビオンの
軍隊のことだろ
いや グレイさんは
植民地経営会社
だって……
ああ
なるほど
東インド会社
みたいなもの
なんだね
東インド会社？
昔
イギリスが作った
植民地経営のための
会社のことさ
独自の軍隊を
保有して
インドを支配して
………

ドクン
それが呼び水に
なったかのように——
その瞬間 様々な記憶が
甦ってきた——
おれという人間が
歩んできた人生
その中で得た
様々な知識が——

どうしたんだよ
急に黙って
…なんでもない
もっと
教えてくれ
ニア
この世界の
ことを！
ニアの話を
総合すると
この
マラガ亜大陸は

より大きな
ローレンシアと
呼ばれる大陸の
大きく突き出した
半島部であるらしい
そこに
大陸の西端にある
工業先進国
アルビオン王国と
ダーラ共和国が
植民地の
獲得を狙って
進出して
きている
おれの世界の
歴史で言えば
19世紀中盤から
後半くらいだろうか
いうなれば
亜人種や
ホンモノの魔法がある
ファンタジー世界が
科学の世界に
急激にシフトしている
——
おれは
そんな印象を受けた
なら…
おそらく——

グレイ・エンフィールド少佐……
聞いたことがある
ハーフエルフ故の茶褐色の瞳
金髪
そして類い稀なる戦士であり策略家……

制服はどう見てもホンモノだ

少佐のご高名はかねがね伺っております

でもこの仮面は……？

――たしか少佐はアダール侯国にダーラが攻め入った際行方不明になったと聞いておりましたが…

命からがら逃げ延びたのさ

だが
追っ手にやられて顔を負傷したので

こんな仮面を付けさせてもらっている

よし やっぱり直接の面識はない
これなら…!!!

その際アダールの姫も攫われ
あの砦に囚われてしまったんだ

——俺は
彼女を助け出したい

ガサ
あれがダーラの砦……
あそこにサクラさんが――
そこ簡単に崩れるぜ気をつけな
えっ…
ゴボッ
うわわっ!!
はしっ
脆いや…これは珪藻土かな…?
ったくこの人数であの砦を落とせって言われてもよぉ
滅茶苦茶だよな
ザッ
ザッ

レムリアンカンパニーの部隊
あの砦に攻撃をかけるつもりなのか？
あの新米少尉は全然アテになんねーし
死ぬ前に逃げ出すかぁ？

ああ
で
あの部隊を
使って 砦を
攻め落とす
まてまてまてっ!!
いろいろ
無茶だろ
それ!?
それに
ニセモノだって
いつかぜったいに
バレるって!!
ヘタすりゃ
死刑だぞ
〝いつか〟なら
充分なんだ
ギュ
この一回だけ――
サクラさんを
救い出すまで
彼らを騙せれば
いいんだ
そのあと
なら
バレて
どうなろうが
かまわない

君たちに与えられた任務はあの砦を落とすこと
ならば我々の目的は同じだ
違うか？少尉
それは確かに…
ちょっと待って下さいよ
まさか信じるんですか隊長？
こんなところにいきなり出て来た少佐サマなんか!!
伍長失礼だぞ!!
疑うのか？
貴様 名は？
アラン・セザック

……で
あります
少佐ドノ

隊長!!!
ザワッ
敵の新たな
部隊が
砦に
接近中です
!!

!!!
まずい
今 敵に数を
増やされたら
ますます
攻略が難しく
なるぞ…

ザ
おれが対処しよう
!!

そいつは豪気ですね
では高名な少佐ドノの
お手並み拝見といきましょうか
隊長

ザ
ザッ
ザ
ザッ

最悪だ……
物資に弾薬人員
それにガトリング砲まで……
あの
張り出しまで
移動する
行って
どーすんですか?
――
これを使う

錬金術師の工房…？

そ
武器が欲しいって言ったろ？
でもここにゃドワーフの店なんてないし
やっぱり武器はドワーフなんだ
お約束っぽいな…

ガチャ

いらっしゃいませ!!!
えーと…
キミは店番かな?
錬金術師さんに
会いたいんだけど
はい

えっと
だから——
コイツが
錬金術師本人だよ
ハーフリング
なのさ
背丈が
ちっちゃくて
オトナになっても
見た目が変わんない
のが多いんだよ
え…!?
そーなの?
何か
ご入用ですか?
ご
ごめん
実は——
すみません
お客さま
最近
武器や弾薬は
ダーラ軍の
買い占めが酷くて
品薄なのです

ごめんなさい
なんでもいいんです
何か戦うのに使えそうなものありませんか？
どうしてもと仰るのでしたら……
ピ
ハッ

ドオン
ニャッ!!?
爆発力は火薬より優れているのですが
微かなショックや温度の上昇で爆発してしまうのです
あまり実用的ではないのですよ
これって…まさか…!!
ちょっと舐めさせてもらってもいいですか？
はい

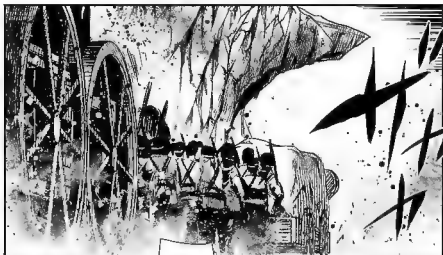
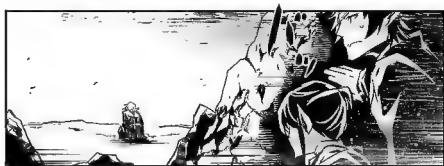
甘い…!!
ペロ
やっぱりこれ
ニトログリセリン!?
※ニトログリセリンは甘い
──ってことは
あれと
組み合わせれば
きっと…!!!
これ
出来るだけ
沢山ください!!!
…何か
良い使い途をご存じなのですね
マレビトさま
──なのでしょう?
神呪の力を
授けられた お方──
…!!
……
どうして

実はわたくし……
街で
貴方がグールと
戦っているところを
見たのです
…この液体を
安定して
持ち運びできる
ようにする
つもりです
異界の技術で？
ええ
承知いたしました
――ただし
条件がございます

薬の対価として
わたくしに
神呪の力を
繙くことと――
貴方の持つ
異界の知識を
学ぶことを
お許しください
…キミ
名前は？
セレア・イグニスと
申します
分かりました
交渉成立です
セレア
まあっ!!
ありがとう
ございます!!!
ぴょん

もう簡単には離しませんわよ
――マレビトさま

ズ…
ザッカカ
来ます!!

上手く全部
爆発してくれ!!!

なっ…!!?

い…一体 今の爆発は
何なんですか？
あんな威力のものは
見たことが
ありません!!
ニトログリセリン
――
衝撃を与えると
簡単に爆発する
液体があるのを
知っているか？

聞いたことがあります
武器に出来ないかと本国でもいろいろ研究されたそうですが
どうしても不安定で――
それをある方法で加工した

爆発させるための導火線と雷管は機能と構造を説明して
セレアに作ってもらい
なんとか形にすることができた

国の科学省でも開発出来なかったものを……
一体どうやって………
製法はある場所で学んだ
だが極秘事項だ
ある場所…!?

山奥の工事現場のバイトさ

でも
体力もないし
なかなか
馴染めなくて…
少しは役に
立とうと思って
資格を取ったんだ
資格
火薬類保安責任者
でも
バイトごときが
って
余計に
嫌われたけど
今思えば
ずっと努力の
方向を
間違ってたん
だよな
おれは…
それが今
こんなふうに
役に立つなんて
皮肉なもんだ…
ダイナマイトは
まだ何本もある

これを使えば
あの砦を攻略する
ことができる
……!!
勝てる…!?
確かに
そうだ…!!
これなら
——
そうだ
やれるかも!!
運が
向いてきたか!?
生き残れるかも
……!!
皆…!!

グレイ・エンフィールド…
不思議な人物だ
でも
彼がいれば
なんとかなるの
かもしれない…
いや!!
簡単に
信用するな
リギア
ブンブン
お前は
今までも
そうやって
男に騙されて
きたじゃ
ないか……
誰だ!!

おっと こりゃすみません 少尉

まさか 水浴びしてるとは 思わなくて

実は俺達 除隊させて もらおうかと

馬鹿な!! 逃亡は銃殺だ!!

だから俺達を 追跡しようなんて気に ならねえように

ちっとばかし 少尉ドノに——

恥をかいて もらおうかってな

やめろ… こんな…!!

貴様ら本気で銃殺になりたいのか？
!!
望むなら今すぐダイナマイトで吹き飛ばしてやってもいいぞ
い いや その… これは——

愚か者共
貴様たちは作戦の後に処分する
…覚悟しておけ
も……申し訳ありませんでした!!
間に合って良かった
夜目が利く連れが警告してくれてね
少佐…

……

あいつら
夜中に消えちまう
かもしれませんぜ？

それなら
それでかまわない
士気の低い兵など
居ない方がマシだ
……ふ

いや 俺も部下から
連中がヤバそうだ
って聞いて
すっとんで
来たんですがね
先越されました

隊長を守ってくれて
ありがとうございます
少佐ドノ

俺は
君の眼鏡には
適ったかな？

…とりあえずは
あんたに賭けて
みますよ
少佐
待っててください
サクラさん……

必ずおれ
あなたを助け出してみせます…!!!

【スリーア砦】

マラガ亜大陸の内陸部と海を繋ぐ重要なルートの一つ、カリーシ川沿いに造られた天然の要害。かつてダトラを支配した土侯が、天然の良港を持つ港街であるスリーアを、内陸部の敵対勢力から守るために造った堅固な砦であり、これまでの歴史上一度も攻め落とされたことがない、まさに鉄壁の要塞としてその名を知られている。

ダトラがダーラ共和国の植民地となった際、砦は無血開城によってダーラ軍に引き渡され、以降は、ダトラ南部、スリーア地方の領主に任命されたガズロ公が、このスリーア砦を居城に定めている。

【ガズロ公】

ボルターレ・ガズロ公爵。ガズロ家は、かつてはダーラ本国に広い領地を持つ大貴族だったが、代々の当主たちは奢侈に溺れ、いつしかガズロ家は困窮していった。そして現在の当主・ボルターレは、その窮地からの起死回生を狙い陰謀まがいの謀略に荷担するが、あえなく失敗。本国内の領地全てを没収され、かろうじて植民地であるダトラのスリーア地方に封じられることで、その命脈を保った。

第6話
突入！スリーア砦

ダトラ
──ダーラ総督府──
全滅？
スリーアに向かった増援が？
はい
どうやら崖崩れに巻き込まれたらしいのですが……
詳細の確認はとれておりません
事故にしてはタイミングが良すぎるな
何者かの攻撃か？
攻撃…!?

人為で崖崩れを起こしたと仰るのですか!?
攻城砲を用意すれば不可能ではなかろう?
それほどの大部隊がアダールの神妃の奪還に投入されたと…!!
やはりガズロ公など無視して直接連れてくるべきだったでしょうか…
あの時──
呪装が解けたマレビトを獣人セリアンが連れ去った直後──
追うぞ!!!

この騒ぎは何事だ!!!
ザッ
この街はガズロ公の支配する土地だぞ!!
貴様どこの部隊だ!!
俺はブレド・レガン総督閣下の命で作戦行動中だ
邪魔をするな!!!
あぁ———ん?
ズンッ

レガンは総督とはいえ成り上がりの平民ではないか
その部下如きが貴族たるこの私に逆らおうというのか？
ガズロ公…!!
おお…これが噂の神妃か
よくやったな少尉
この娘は私に任せるがよい
……!!

おそらく
噂を聞きつけて
狙っていたのでしょう
それを　みすみす…
〝豚〟だな
いや　オーク共の方が爵位を振りかざさない分まだマシか
訂正しよう
ヤツは
豚以下だ
ですが…
案ずるな
本国から神妃を総督府預かりとする命令書が届く頃だ
この事態を見越して
あらかじめ
ご手配を……!?

豚が下手を打つ前に取り戻すぞ
は!!
うふふ
キャキャ
閣下
今日はお招きくださり光栄ですわ
お会いできるなんて夢のよう
本当ですわね おほほほほ…

ぶす…
ズズズ
ギチチ
えぇい
何度言えば
分かるのだ!!!
きゃあっ!!!

都の女はそんな下品な笑い方はせぬ!!
もっ……申し訳ございません!!
もっと言葉の端々動作の一つ一つが洗練されているのだこの田舎者共が!!!
きゃっ!!
閣下その調子ではまたすぐに女どもを壊してしまいますぞ
かまうものか!!!
ああ──
なぜだ!?
なぜ由緒正しき大公爵ガズロ家の主たるこの私が
本国から遠く離れたこんな辺境の植民地で燻っていなければならぬ!!?
ふぅー…
ふー
はー…

フゥ

しかも この科学の時代に

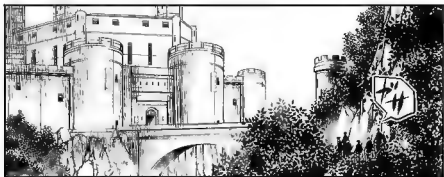
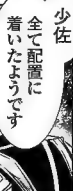
進歩に乗り遅れた辺境で!!

廃れた神の残滓をかき集めるなど都で栄華を誇った私のすべきことか!!?

分かっております

神妃は神々の残滓の中でも本国から最優先での捕獲を指示された存在です

上手く取り込めば閣下が中央に返り咲くことも可能となりましょう

あの小娘はまだ折れぬのか?
増援も来ぬし…もう仕方ないな
は…いささか強情で
多少手荒だが身体に直接言うことを聞かせるしかなさそうだ

やっぱり歩哨の数が増えてますね

迂闊に近づこうもんなら
即座に蜂の巣にされちまいます

問題ない
こちらには都合が良いくらいだ

報告します

第1班
配置に着きました

第2班も配置完了です
少佐
全て配置に着いたようです
分かった
しかしこの作戦
本当に上手くいくんですか?
無論だ

必ず成功する
俺を信じろ

バカかてめーは!!
迷ってる人間はな
いっつも
何でもいい
自分の背中を押してくれるモンを欲しがってんだ!!
だから客にはいい商品です
最高ですって自信満々に言い切りゃいいんだよ!!

そうすりゃ
こんなインチキ
商品だって
気分で効いちまう
ことがあンだからさ
いくつめに
クビになったバイト
だったっけ……
あの時は
最低のペテン師野郎
って思ったけど
でも
真実だ
自信のない人間には
誰もついてこない
たとえ根拠が
なくとも
言い切って
皆の不安を
打ち払うんだ

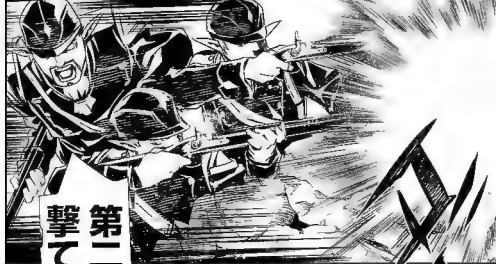
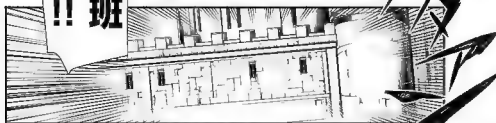
戦って…生き残るために!!!
作戦を開始する!!!

バオッ
!!?
うわぁぁ――!!!

なんだッ!!?
攻城砲の砲撃!!?
何事だ!?
どうやら――何者かからの砲撃を受けている模様です!!
砲撃だと!?
上手くいってくれ!

……では作戦を説明する
まず隊を3つに分け
砦の東に一個分隊
南に一個分隊
そして対岸の西側に残りの全てを配置する
兵を分散させるんですか？
せっかくあの〝ダイナマイト〟があるのですから
撃破して集中突破する方が……
いや脆くなっていた崖とは違う
石組みされた城壁を壊すには威力が足りないんだ
じゃあどうやってあの城壁を……？

アラン
君が城を守っているとして爆発物が飛来してきたら
何を疑う？
そりゃ…攻城砲での砲撃ですね
そう
まず作戦の第1段階としてダイナマイトを投擲し
敵に攻城攻撃に晒らされていると錯覚させる
動かせる兵は東側へ動かせ!!
攻城砲を撃っている敵を攻撃させるのだ
は!!
ドタタ

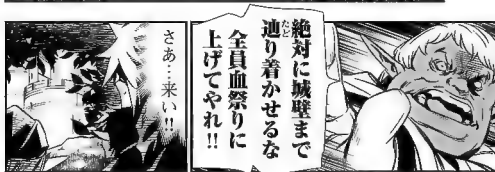
警備の兵士が東側の援護に数名移動してます!!
撃ってきた撃ってきた!!
ひゃっ
よしかかったな
これで城の西側は手薄になる
そしてここで──

第二班撃て!!
ダァァァン
つ!!
今度は西側からだ!!

敵の注目を東側に集めたところで次は西側に配した全兵士に砦を一斉攻撃させる
西側って…あのだだっ広い岩場は隠れる場所もまったくない
飛び込んでも城壁に辿り着く前に血祭りですぜ？
飛び出す必要はないんだ
砲撃をオトリにこちらが
全兵力で西側から城に取り付こうとしていると思わせられればいい
——これが作戦の第2段階だ
閣下!!
今度はなんだ!!?
西側から敵襲です!!
かなりの数の歩兵が一気に!!

そうか…読めたぞ!!
砲撃はオトリだ!!
東側に注意を集めているうちに
反対側から侵入するつもりだったのだ
だがそうは行くか!!!

よし
正面の残りは
2人
これなら…!!
行けそうだね
あとは任せな

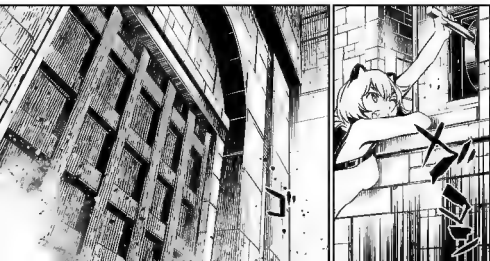
っ!!
全員
回れ右っ!!
ばっ
危険な役目を
引き受けてくれた
こと
感謝する
べつに礼なんか
要らないよ
姫さまを
助けるため
だからね――
頼むぞ
ニア

ん…!?

…豹!!?

凄い…今時
あそこまで
完全に獣化できる獣人なんて……

ん？
珍しいのか？

あたりまえでしょう？
純血でなければ能力は喪われてしまうんですから

…!?
ぐわぁっ!!!
タタッ

ゴゴゴ
門が開いた……!!!
よーし!!
今までガッチガチだった城が ようやく股ぐら開きやがった!!
ここでガツンと突っ込まなきゃ男じゃねえぞ!!
おう!!

突入せよ!!!
さあ…正念場だ!!!

ということは
つまり西も東も
オトリで
本命は
真正面の
突破だと…!?
待って下さい
この作戦を
実行すると
肝心の突入部隊が
手薄になります
中に入っても押しつぶ
されちまいますよ
心配は無用だ
俺がアダールの
姫と合流できれば
全ての
カタが付く
そんなの
一体
どうやって
……!?
まさか…
少尉には
まだ
ダイナマイト
のような
奥の手がある
のですか？
ある意味では——
それ以上に恐ろしく
強力な兵器だ

うおおおっ!!!
くそ
やっぱりおっかない…っ!!!
少佐
後ろっ!!!
!!!

……!!
病み上がりで無理をなさらないで下さい
少佐は私がお守りします!!!
あ ああ…助かる

カ……じゃない グレイ!!
ニオイがする
姫さま あっち!!
行って下さい
ここは我々が!!

頼む!!
ダ

!
…!
さっきから この騒ぎ…
いったい何が 起こってるの…!?
まさか…!?

ううん
そんなの
あり得ない
助けが来る
なんて……
何者だ
貴——
ここはあたしが
防ぐ!!
アンタは姫さまを!!
分かった!!
…うそ…よね…?

遅くなってごめん

どうして来たんです!?
あなたは関係ないのに!!
私が巻き込んだ……それだけなのに…!!!
違うよ
おれは誓ったんだ グレイさんに
強くなって君を守るって
――だから これは おれの戦いなんだ

あなたは莫迦(バカ)です…
サクラさん…
そうだな サクラの言う通り
確かに汝(うぬ)は大馬鹿者だ

汝は妾の下僕であろうが!! 主を散々待たせてどうする
…すみません
だがここまで来たことは誉めてやろう
──褒美だ 妾の服を脱がせてよいぞ
ええっ!?
この有様じゃ仕方なかろう?
ジャラ
うーっと
プルル

ズッ
躊躇うな
カイ…
ジュル
この乳房は
いま…
お前の為に
張り詰めて
おるのだから…
たゆん

さあ
妾が愚昧なる下僕よ
汝に問おう——
はい…!!
ならばとくと味わえ
妾が乳房には神宿る
吸うて呪わる覚悟はありや?
う…
ちゅむ

妾が甘美なる呪乳を——
くっ… あああ〜〜〜

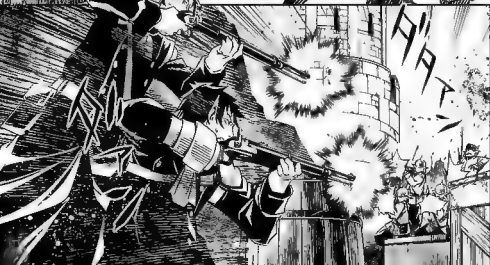
【ダトラ総督府】　ダーラ共和国が植民地化した、ダトラを含めたマラガ亜大陸の北側一帯及び旧アダール侯国領を支配するために設置された現地機関。植民地の通商と軍事を司り、実質的な植民地の支配組織だが、貴族が領主として封じられている土地の場合は、その領主の意向が優先されるため、総督も絶対的な権力者とは言いがたく、この二重構造はしばしば植民地経営に混乱を引き起こす火種となってしまっている。

現在のダトラ総督はブレド・レガン。平民の出自でありながら総督の位にまで登り詰めた人物であり、能力の高さは高く評価されているが、その素性などは謎の部分が多く、特に貴族からは「平民出のクセに」と、疎まれているという。

【レムリアンカンパニーの兵士】　アルビオンの国王により、植民地経営の為の特許状を授けられた会社組織として成立したレムリアンカンパニーは、初期において現地徴用の傭兵を主な軍事力として用いた為、現在もその性格を色濃く残し、その扱いが本国の正規軍と同等になった現在でも、部隊ごとに独自の気風を有している場合が多い。

また、基本的に出身や身分を問わず能力で評価されるため、植民地出身者が出世する早道とも言われており、実際に、成員の約半数はアルビオンが世界中に持つ植民地の出身者で構成されている。

第7話／異形VS異形

はあっ!!
ダダァーン

敵は少数だ!!
取り囲んで圧し潰せ!!
お前残弾は!?
あと10です!!
隊長!!
このまんまじゃジリ貧ですぜ!!
分かっている!!
心配は無用だ 俺がアダールの姫と合流できれば 全てのカタが付く
また 騙されたのか 私は…？

いや――

うわっ!!

ルベイ!!

くそっ 今
止血してやる!!

――!!

今だ!!
少佐……っ!!!

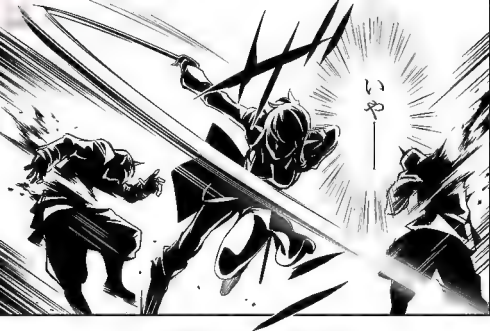
ガ
!!?

今のは!?

!!!
うっ…撃てッ!!!

!!?
バババ
ドドドド

ズ!!
ぐ…
馬鹿…な…ッ
うわ…
クソッ!!!

うわあああ!!

あれがまさか…
少佐の言っていた〃兵器〃なのか…!?

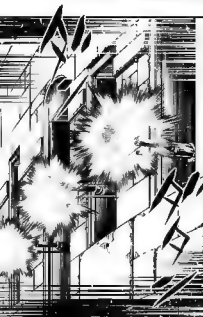
隊長さん!!
たた
サクラ・シャクンティーラ・アドニエラだ
妾を救い出すために尽力してくれたとのこと
礼を言うぞ
は はい…

この女が少佐の言ってた？
しゃなり
ふん…
彼奴め ようやく神呪の戦いにも慣れてきたようだな
彼奴って… じゃあ あれはまさか…？
応よ
妾の力であのようになっておる
もっとも意識は失われておるがな
…!!

姫を逃がしただと!!?

は！
たった今 報告が
そして さらに——

あれはまさか…
呪装者か!!?
おそらく…
レムリアンめ……
呪装出来るヒューマンを用意していたのか!!

ヒュ

ぬうっ
何という野蛮な
戦い方ッ!!
醜いぞ 醜すぎるゥッ!!
洗練かつ文明化された
戦争のやり方を
全く無視するなどッ!!
ガズロ様!!!

ひっ!!!
あ…ああ…

栄ある我が
ガズロ家に伝わる
美と洗練と贅の
極みを尽くした
美術品の数々が…ッ

ダーラの栄光を…
文明の美しさを
踏みにじるか
この蛮族
めええッ!!

閣下…

アレを使うぞ!!

毒には毒ゥ

〝野蛮には
野蛮を〟だッ!!

くそっ…!!

なんなんだ
この怪物ゥッ!!

少佐に続けッ!!!
!!?

ズッ

なっ…
なんなんですか
ありゃ!?
岩装鬼
神代の
魔法兵器さ
まだ残っていた
とは……
!?
絢爛たる
文明文化の
守護者たる――
ガズロ家の
末裔たる私がッ!!
かように
野蛮かつ無骨かつ
迷信に満ちた呪具を
使うのは 甚だ心外
なのだがな――
それほどに
憎いッッ!!!
そう 心得よオオ!!!

……ッ!!!
効かぬなァ
ドドドドッ!!

ははははは!!!
シュウウウウ
!!!
良いゾォ！古の野蛮な術具なれど――
貴様のごとき異形を屠るにはまことに相応しいということかアッ

少佐!!!

撃て!!!

無駄だ!!!

無駄だと言ったろうがァッ!!!

ドゴォ
ザザッ
グッ
!!!
ここまで付いてきてくれた部下たちが…!!!
ざわッ
仕舞いだ
覚悟せい
やはり無理だったのか!?
指揮官も部下たちも皆
半端者の集まりである部隊に

この砦を落とすなど――

少佐…!!
その身を盾に
私たちを…!!!
バッ
バッ
その程度の攻撃で
このゴーレムを
なんとか出来ると
思うかァッ!!

ジャガガガ
無駄ですぜ あの程度の攻撃じゃ
ゴーレムはビクともしてねえ
少佐は なぜあんなことを?
成る程な…… 彼奴の意図は分かった
奴が穿とうとしている――
あの胴体の真ん中の一点
そこに全ての攻撃を集中させよ!!

総員狙えっ!!
撃てっ!!!
ふわははァ！
束になろうがその程度！かすり傷を付けるが関の山ッ!!
シュウウウ
かすり傷で充分なのであろ？

のう
カイよ――

その程度おッつ!!

ハ!!

水に
沈めれば
なんとか
なると
思ったか⁉

愚かな!!!

ゴゴゴゴゴ
なっ…
なんだ
この音は!!?
……!?

呪装したカイが
おそらく
かつての仕事の
経験から

無意識に
導き出したであろう
その攻撃は――

!!?

……!!?
これが神の残滓……
魔法の力だという……のか……!!!
魔法の力だと……

……!!
ご苦労だったな

……!!
ピキ
ピキ
グレイ少佐…
!!
カイさん!!
!!?

隊長!!
指揮官は殺りました
敵は浮き足立ってます!!
あ
ああ…
残敵を掃討する!!
はいっ!!
やった…な

うおおおおお!!!

ありがとう カイさん…

ムク

ここは…

カーセルにある
レムリアンカンパニーの
商館ですよ
!!
スリーアの砦を
陥落させた後
貴方は ここに
運ばれてきた
のです

あのっ
部隊のみんなや
サクラさんは…？
ご無事ですわ
皆さん
館で休んで
おられます
いま
人を呼んで
参りますね
しばらく
お待ち下さいな
稀人さん
〝稀人〟…か
ってことは
きっと全部
バレてるんだな…

死刑とかなるのかな…

でも
もういいや

これはこれで
満足な――

貴様がグレイの偽者（にせもの）か

……!!

あなたは…？
レムリアンカンパニーマラガ支部総支配人
リュカ・ローシェル・アルビオン閣下です
…すみませんやむを得ず少佐の身分を騙らせてもらいました
どんな罰でも受けます
ほう？罰を受けるのが望みか？
正直ずっと辛かったんです
でもこれでようやく重荷から解放される…
なるほど解放されたい
——か

だが
それは許さん
お前には
まだグレイである
ことを命じる
そんな……!!
もっと続けるなんて
おれ――
無茶ですよ!!
ほんの何日かだけでも
神経をすり減らしたのに
お前がどうしても
嫌だというなら
それも構わん
だが　その場合――

アダールの姫は
野に放たれ
リギアの部隊は
より苛烈な戦場に
送り込まれることに
なるだろうが
どうする?

第8話／商館の夜

グレイ・エンフィールドだと!?
はい
敵の兵達が指揮官のことをそう呼んでいたのです
グレイ少佐…と
ギリ
ヤツは死んだ!
絶対に砦を落とすことなどできん!!
………

――さあ
どうする？
カイ・ワタリ
グ…
いつも
こうだ……

どんな仕事先でも
上司たちは いつも
おれに無茶を言う

あいつらは
立場の弱い人間を
どうやって使い叩くか
よく分かってるんだ

でも——

おれはもう
今までのおれじゃない…！

……たとえ この命令が
断れないとしても——

……条件が2つあります
条件？
出せる立場だと？
おれに　ずっとグレイさんをやらせるのは相当な無茶ですよ？
無理強いするからにはそれだけの理由がある――
違いますか？
なるほど偽者のくせにスリーアを落としただけはあるか
面白いな

その戦功は
認めて
褒美をやろう
条件とやらを
言ってみろ
まず…おれが
グレイさんを
演じ続けるには
彼自身のことも
このカンパニーや
世界のことも
もっと深く
知らなければ
なりません
それを
勉強させて
ください
よかろう
もう1つは？
それは――

それじゃ流しますよ〜〜〜
ザバァァ
ピル
ピル
ありがとうニアさん

もー
ニアのことは
呼び捨てにして
くださいよっ
あたしは
ひめさまのメイド
なんですから
でも……
あたし
侍女だって言った
ウソを
ホントにするって
決めたんです
だから
遠慮はなしです
いいですね
分かったわ
ありがとう
ニア
はい

あっ…!!
サクラ姫!?
ざるぃ
もうしわけありません
ご入浴中とは気付かずに
こんなご無礼を!!!

いいから
その凶器……
隠そうよ
なんか
こっちが恥ずか
しいって
その…
隊の訓練が
終わって
早く一汗
流したいばかりに
確認を怠りました
今すぐ
出ていきます
ので!!
待って下さい!!

ここでは
私は客人です
それに……
ここまでの道中では
ゆっくり お話も
出来ませんでしたし
よろしかったら
ご一緒されませんか？
………!!
なるほど
〝神妃〟というの
ですか…
では あの
シャクンティーラ
という方は…？
子供の頃から
私の中にいる方
です

旧き神々に連なる方だそうですけれど…
それ以上は私もあまり
なるほどとにかく少佐のあの力は
神々のモノだったのですね…
凄いわけだ
それでどのようにあの力をさずけられるのですか
え!?
ガバッ
それは……っ!!
カァァァァ
かっ神々の秘密です!!
すっ過ぎた質問でした
お許しを
――しかし素晴らしいのは

やはりグレイ少佐ご自身です
あの決断力や知恵——
そして勇気!!!
……え?
勇気? 決断力?
お恥ずかしい話ですが
私は部下たちを中々掌握出来ずにいました
ところが!!
少佐は颯爽と我々の前に現れると
瞬く間にあのクセのある兵たちの信頼を勝ち得たのです!!!

科学の知識もずば抜けておいでで
その上さらに失われた神々の加護もある!!
まさに"軍神グレイ"
――噂に違わぬ……
いや 噂以上に素晴らしい御方です!!
誰…?
ふえぇ
ほんとのことですよ
あいつ ひめさまを助けるためにものすごく頑張ったんです
…………!!
チャプ

サクラ姫
私は貴女が羨ましいです
あんなにあの方に想われていて…
そっそんなことありません!!
私とカイさんはそういうのと全然違いますから!!!

そうなのですか⁉
私は てっきり
お2人は そういう
仲だと……
ちがいますからっ
そんなの
ぜんぜん
ありませんっ!!!
そう…
なんですか
リギアさん……
皆さん
御入浴中に
失礼いたし
ますね

無事で……よかったです

ありがとう
サクラ姫のおかげです
部隊の皆も全滅せずにすみました
そんな…私の方こそ
もうだめだって……
誰も助けに来ないって思ってたのに……あなたが来てくれて本当にわたし……
義務ですから
…え？

俺は約束しましたからね
俺の命の恩人である あの人に
絶対に貴女を守ると
その誓いに従ったまでで礼を言われるようなことではありません
……!!
そう…ですか
リギア 世話をかけたようだな
めっ 滅相もありません

お前の部隊は正式に俺の麾下に配属されることになった
光栄であります!!

それで早速だが明日にも俺に新たな任務が言い渡される
任地には一緒に赴いて貰うことになるからな
よろしく頼むぞ
大尉

お任せください!!!

――というわけで
ここで お別れに
なります
姫
!!?
お別れって
それは
どういう――

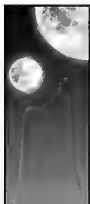
それに
世間知らずな
お姫様を連れて
行くのは
少々 足手まとい
ですしね
……!!
足手まとい
…ですか
そうですか
バカ！
のバカッ

なによ
カイのくせに
義兄上様みたいなこと
言って…!!

ぷい
やっぱり嫌い……
カイなんか!!

竪琴の音色
……?

綺麗な曲……

こんな時間に
誰が……?

!!
リュカ殿下…

アルビオン王国
現国王の末の息子……
次の王位を争う
6人の継承者の
1人……

ポロ

いまいちだな
えっ!!?
ペっ
ガサッ
アダールの姫…
サクラと言ったな
盗み聞きか
いい趣味だ
あ
ガサ
ちっ…がいます!!
夜風に当たりにきたら
たまたま聞こえただけです!!
手すさびに
弾いてみたが
つまらん
やはり楽器は
性に合わんな

サクラ
お前は
この先
どうする
何か心積もりは
あるのか？
この先…ですか？
お前は今
俺の庇護下にある
もし望むなら
このまま商館に
居続けてもよいし
近所に
館を建てても
良い
あるいは
俺の妻になるか
えっ…!!?

俺は兄たちも叔父も全員蹴落としてアルビオンの王になるつもりだ

土侯の姫でも〝神妃〟となれば妃に申し分はない

どうだ？

そんないきなり言われても…!!

えっ…!?

ありませんそんなの!!
はたた
あの…どうして そこまで言って下さるのですか
ん？
ああ
あいつめ
言っておらぬのか
カイにグレイで在り続けるよう命じたのは俺だ
こちらにも都合があって
今――
『グレイ』に死なれるわけにはいかんとな
……!!
そう命じたら
ヤツは条件を出してきたのさ――

それはサクラさんの身の安全です
ほう？
おれはグレイ少佐に約束しました
彼女を守ると
ですからサクラさんの安全を保障してくれるなら
おれは戦場にも
──地獄にでも行きます
………

…………!!
面白い男だ
纏う空気は
弱々しく
頼りなげなクセに
不意に強烈な
芯の強さを覗かせる
ヤツとの取引を
実現するには
俺がお前を
娶るのが最善だ
──なに
即答しろとは
言わん
明日までに
考えておけ
ザ

…あの
楽器を
飽きた
もう要らん
ガシャ

いいリーラ
なのに……
ポロ

カイさん……
私がこの世界に喚び出してしまった
異世界の稀人
……弱くて臆病なのに……
勇気を振り絞って私を助けてくれた人

貴女はこんな弱気に応えてくれるような人じゃない……

微かな潮の匂い

内陸にあるアダールとはまったく違う空気……

今まで門から出たことすらなかったのに

……さあ
あなたはどうしたいの？
サクラ……

では
次の貴様らの
任務だが
失礼いたします
サクラさん!?

求婚のお返事をさせていただこうと
きゅ…求婚!?
ガタ
聞こう
申し訳ありません折角のお申し出ですが
謹しんでお断りさせていただきます
…分かった
で？
グレイ少佐
ツカ

あなたは私の安全を
恩ある人に誓ったと仰いました

ですが私が真に安穏とできるのは
私の国……故郷たるアダール侯国以外ありえません

それが
できるまで
あなたの傍を
離れるつもりは
ありません
いいですね
グレイ・
エンフィールド少佐!!!
ぷ
あはははははは
お前も
面白いな
サクラ

いい答だ
お前も今後
グレイの部隊に
同行するがいい
その権利を
俺が認めてやる
閣下!!
それでは
約束が!!
本人の意志を
無視するのか?
それに丁度いい
次の任地は
アダールとも
古い付き合い
のあるという
国だ
グレイ・エンフィールド
貴様に命じる
ガランドアに赴け

ガランドアって
あのドワーフの王国ですか!!?
そして王妹の姫を口説いてこい
その姫はどうやら〝神妃〟らしい
――つまり お前が新しく乳を吸う相手を手に入れてこいという話だ
グレイ

ガランドア
統領(とうりょう)!! 大変です!!
麓(ふもと)の村から レムリアンの 白耳長(しろみみなが)が 近付いてきて やがると!!

率いてるのはグレイってヤツだそうです
アダールの〝神妃〟を手にしたという噂のあの男か…!!
我が妹を穢そうとする輩は――

全てこのハンマーで
粉々にしてくれる…!!!
『神呪のネクタール』第②巻／完

前巻から数ヶ月のご無沙汰です。
『神呪のネクタール』第2巻、手にしていただき本当にありがとうございます！

×　×　×

そして挨拶するなり、いきなり謝罪となりますが……すみません！
1巻に大きなミスを見つけてしまいました！　m(_ _)m
実は世界観説明のコラム（95ページ）で、本来なら『ダーラ共和国』とするべきところが、『オード共和国』となってしまっております！
……実はこれ、ダーラになる前に仮で付けていた名前がそのまま出てしまったという痛恨のミスでありまして……。お持ちの方は当該部分を『ダーラ』と読み替えてくださいませ。
しかも、重版時にも気付くことができず、修正されるのは三刷以降になってしまうという体たらく。……本当にすみません。

×　×　×

言い訳ですが、この作品は異世界モノということもあり、固有名詞のネーミングにむちゃくちゃ悩むのです。これが楽しいのですが実にキツい作業でして……（汗）。
自分の中でしっくりくるまで、何度も付け直したりすることになるのです。カイやサクラの名前も何度も直したか……。あ、でもシャクンティーラはたしか一発で出た気がします。これもまた不思議。
さらに個人だけでなく、国や土地、川の名前、そしてその設定等々決めなければならないことが山盛りで、一応現実の世界を舞台としていたクェイサーに比べて、個人比で1.3倍くらい大変な思いをしています (^^;)

×　×　×

そんな、産みの苦しみと楽しみをたっぷり味わわせてくれる『ネクタール』。
これからも脂汗を流しつつ、佐藤さんも私も全力でがんばりますので、何卒、応援よろしくお願いいたします！

葉月某日　吉野弘幸

神呪(しんじゅ)のネクタール②

2017年10月1日　初版発行

著　者　吉野弘幸(よしのひろゆき)・作
©HIROYUKI YOSHINO 2017
佐藤健悦(さとうけんえつ)・画
©KENETSU SATO 2017

発行者　沖　浩

発行所　株式会社 秋田書店
〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-1326　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座　00130-0-99353

印刷所　大日本印刷株式会社
Printed in Japan

ISBN978-4-253-23827-4

デジタル版　2017年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com